

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 水口剛	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) グリーンボンドガイドラインの取りまとめ</p> <p>グリーンボンドとは、資金の用途を環境改善事業に限定して発行する債券である。海外では 2013 年のグリーンボンド原則 (Green Bond Principles) の公表を機に発行が拡大しているが、日本ではまだ十分に広まっていない。そこで環境省が日本版グリーンボンドガイドラインを策定することとなり、検討会の座長を務めることになった。4 回にわたる検討会の他、グリーンボンド原則策定に関わった外国銀行との意見交換会、国内有識者による第三者委員会、パブリックコメントを経て、座長としてガイドラインを取りまとめた。</p> <p>(2) 地方創生と環境金融に関する意見交換会</p> <p>地域金融機関が地域の自然資本を活用し、地方創生に貢献するビジネスモデルの創出を目指し、環境省環境経済課及びトーマツと協力して 2 回にわたる意見交換会を行った。第 1 回は北洋銀行及び北海道庁、第 2 回は滋賀銀行、滋賀県庁、東近江市役所などの参加を得て、いずれも有意義な意見交換となった。環境省の次年度事業に継承される予定である。</p> <p>(3) 環境省 ESG 検討会への参加</p> <p>環境省が設置した ESG 検討会に委員として参加し、議論に加わった。その成果は、報告書『ESG 投資に関する基礎的な考え方』としてまとめられた。</p> <p>(4) 運用機関と NGO による協働プロジェクト</p> <p>機関投資家は ESG 投資やスチュワードシップ・コードの観点から、投資先企業とのエンゲージメントをする必要がある。一方、企業にはコーポレートガバナンス・コードに基づき、ステークホルダーとのエンゲージメントが求められる。ここに、機関投資家、ステークホルダー、企業の三者によるエンゲージメントの可能性が生まれる。そこで、従来から企業とのステークホルダーエンゲージメントに取り組んできた「CSR レビューフォーラム」の事業の一環として、ある機関投資家 (運用機関) との協働プロジェクトを開始することとし、両者の橋渡し役を担い、実質的な責任者として運営にあたった。</p> <p>(5) 教科書の執筆</p> <p>授業「企業と会計」で使用する教科書として、新たに『企業と会計の道しるべ』(中央経済社) を本学平井教授他との共著で執筆し、刊行した。</p> <p>(6) 執筆活動</p> <p>以下の原稿を執筆・掲載した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>「ESG 情報開示を巡る認識ギャップ」『ディスクロージャーニュース』Vol.33、2016 年 7 月号 (統合ディスクロージャー&amp;IR 研究所)</li><li>「パリ協定と ESG 投資：機関投資家は気候変動問題にどう向き合うのか」『月刊ビジネスアイ ENECO』2016 年 12 月号 (日本工業新聞社)</li><li>対談「ESG 投資への期待：石炭産業外しは行き過ぎか、コスト、安全保障も配慮を」『日経エコロジー』2016 年 8 月号 (日経 BP 社) (東京大学公共政策大学院・有馬純教授との対談)</li></ul>	

- ・ 「金融機関の CSR から ESG ファイナンスへ：21 世紀金融行動原則サミットの開催を」『金融ジャーナル』2016 年 11 月号
- ・ インタビュー記事「持続可能社会の創造に貢献する ESG 投資の現状と今後」『アイアール magazine』2016 年夏号（野村インベスター・リレーションズ）
- ・ 「責任投資原則と受託者責任」『Journal of Financial Planning』2016 年 5 月号（日本ファイナンシャル・プランナー協会）
- ・ 「サステナブル投資の方法」『Journal of Financial Planning』2016 年 7 月号（日本ファイナンシャル・プランナー協会）
- ・ 「スチュワードシップ・コードとコーポレートガバナンス・コード」『Journal of Financial Planning』2016 年 9 月号（日本ファイナンシャル・プランナー協会）
- ・ 「サステナブル投資と情報開示」『Journal of Financial Planning』2016 年 11 月号（日本ファイナンシャル・プランナー協会）
- ・ 「サステナブル投資と年金運用」『Journal of Financial Planning』2017 年 1 月号（日本ファイナンシャル・プランナー協会）
- ・ 「ESG、今何が問題なのか」『Journal of Financial Planning』2017 年 3 月号（日本ファイナンシャル・プランナー協会）

#### (7) 講演活動

以下の講演等を行った（主なもののみ）。

- ・ 「責任投資の論理と動機 ～ 欧州 ESG 投資の現状」神戸 CSR 研究会、2016 年 4 月 16 日
- ・ 「欧州 ESG 投資の現状 ～ 本当はどこまで進んでいるのか」環境監査研究会、2016 年 4 月 17 日
- ・ 「日本の年金制度と年金積立金の運用」NPO バンク連絡会、2016 年 7 月 24 日
- ・ セミナー「サステナブル投資論 ～ 今、欧州で何が起きているのか」NPO 法人サステナビリティ投資フォーラム、2016 年 10 月 7 日
- ・ シンポジウム「パリ協定から広がる金融フロンティア ～ これからのビジネスの新常識」セッション 3「地域における低炭素投資を通じた地方創生の実現」登壇（モデレーター）。環境省、2016 年 10 月 12 日
- ・ 講演「欧州における ESG 投資の動向」一般社団法人未踏科学協会、2016 年 10 月 28 日 13：00-17：30
- ・ 「ESG について考える連続講座」第 1 回「今なぜ ESG 投資なのか」日本 CFA 協会、2016 年 10 月 28 日 19：00-20：30
- ・ 「サプライチェーンマネジメント、これからの課題」CDP サプライチェーンアジアサミット、2017 年 2 月 23 日

#### 2 その他の事項

今年度（2016 年度）は、本来、改選の時期ではなかったが、急遽、大学院経済・経営研究科長を務めることとなった。10 月には基準協会の認証評価の現地調査に研究科長として対応した。また、全学人事委員会の委員として新任人事の面接を 30 回近く行ったほか、第 2 期中期計画の策定にも研究科長として関わった。

#### 3 次年度以降の計画・抱負

2015 年度にロンドンで 1 年間、欧州の責任投資を研究し、今年度は日本の状況を中心に研究したことから、次年度にはこれらの知見を著書にまとめたい。